

研究課題番号	【5-2304】
研究領域	安全確保領域
研究課題	「魚類急性毒性試験の動物福祉に配慮した試験への転換に向けた研究」
研究代表者（所属）	山岸隆博（国立研究開発法人国立環境研究所）
研究期間	2023年度～2025年度
研究キーワード	動物福祉、魚類急性毒性試験、生態毒性、生態リスク評価

## 研究概要と進捗状況（中間の2024年度時点）

### 研究概要

#### 研究I. 目標

魚類急性毒性試験における安楽死マニュアルの作成

- メダカ及びゼブラフィッシュを対象とした安楽死導入法の提案（サブ1, 2）。
- 機械学習を活用した客観的症候診断手法の指針提案（サブ3）。

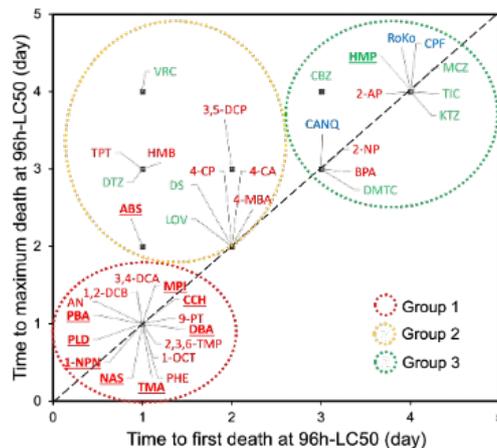
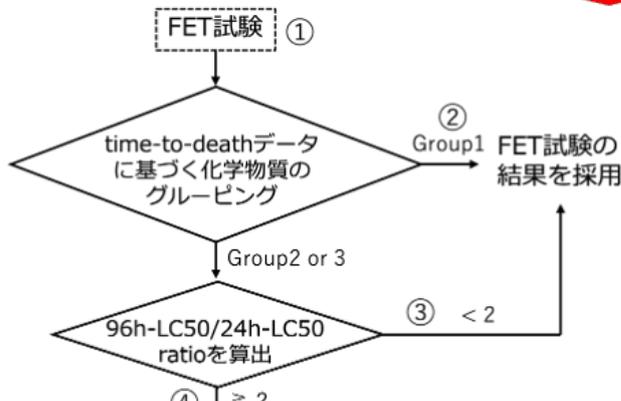
#### 研究II. 目標

代替試験の適用範囲と活用法の指針作成

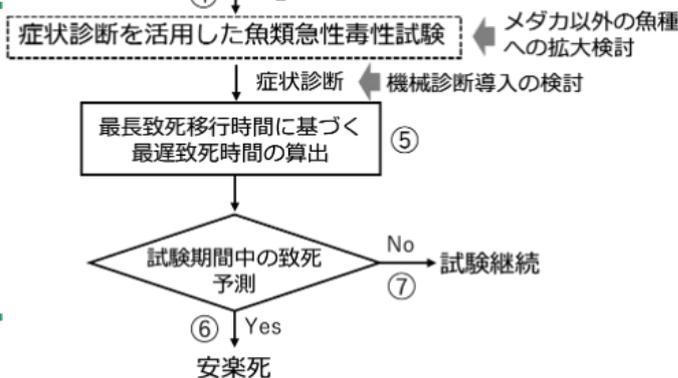
- FET試験及びニジマス鰓細胞試験の適用範囲の提案（サブ1, 2）。

適用範囲外の物質群については安楽死マニュアルに従う。

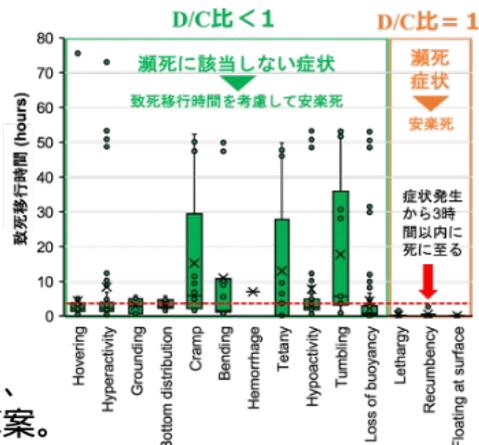
### 研究II



### 研究I



症状診断による安楽死導入と代替試験との併用による、動物福祉に配慮した新たな魚類急性毒性試験手法の草案。



## 環境政策等への貢献

国際的に魚類急性毒性試験法の動物福祉への抵触が問題となり喫緊の対応が求められる中、本研究課題で開発が見込まれる「症状診断による安楽死導入と代替試験との併用による、動物福祉に配慮した新たな魚類急性毒性試験手法」は、そのデータの提出が義務付けられている、化学物質審査規制法（化審法）や農薬取締法（農取法）の動物福祉に即した運用に大きく貢献する。